

# 新たな肉用牛の改良増殖目標のポイントと主な変更点（案）

資料8

## 現行目標のポイント（H32年度）

- ・改良の中心を脂肪交雑から生産性へ移し、従来の脂肪交雑志向の経営に加え、低コストで適度な脂肪交雑を目指す経営を推進し、消費者の選択の幅を拡大。
- ・遺伝的多様性に配慮した畜種の選抜を推進。

## 課題、方向性

- ・繁殖性〔初産月齢・分娩間隔〕は横ばいで推移
- ・生産コストの低減が求められる中、肥育期間の短縮や飼料利用性の改善が図られていない
- ・近交係数は増加傾向で推移し、遺伝的多様性が減少

## 新たな目標のポイント（H37年度）

- ・SNP情報やICT等の新技術を活用した種畜の繁殖性の向上や繁殖管理の徹底を推進
- ・飼料利用性や増体性の向上等による肥育期間の短縮、赤身肉などの「おいしさ」の指標化やブランド化の推進
- ・遺伝的多様性により配慮した種畜の選抜と広域的な種畜の能力評価を一層推進

定性的な目標

### 1. 能力

- (1) 産肉能力  
増体性の向上、「おいしさ」に係る評価指標の検討
- (2) 飼料利用性  
日齢枝肉重量等の向上
- (3) 繁殖性  
繁殖性に優れた種畜の選抜、子牛生産指数に着目した改良の開始

### 2. 飼養管理等

- (1) 繁殖管理の徹底を通じた繁殖性の向上
- (2) 効率的な肥育を通じた出荷月齢の短縮
- (3) 遺伝的特長を有する多様な育種資源の確保

### 1. 能力

- (1) 産肉能力  
増体性の向上、赤身肉のアミノ酸組成や締まり・きめ等の肉のおいしさ評価に関する科学的知見の蓄積を進め、「おいしさ」に関する新たな指標化項目や評価手法の確立、評価指標に基づくブランド化等を推進
- (2) 飼料利用性  
日齢枝肉重量等の向上、種雄牛選抜のための肥育段階における余剰飼料摂取量等に関する指標化の可能性を検討
- (3) 繁殖性  
繁殖性に優れた種畜の選抜とSNP情報の活用、子牛生産指数の参考指標化

### 2. 飼養管理等

- (1) ICTなどの新技術の活用を含めた繁殖管理の徹底を通じた繁殖性の向上
- (2) 増体性の向上等によって一定の収支バランスが確保しうる段階での出荷時期の早期化
- (3) 遺伝的特長を有する多様な育種資源の確保や多様性分析に係るSNP情報の活用の推進、広域的な種畜の能力評価を一層推進

定量的な目標

### <種雄牛>（黒毛和種）

- ・日齢枝肉重量（育種価）：+53（対平成13年度比）  
※出荷月齢の約1割の短縮に相当
- ・脂肪交雑（脂肪交雑）：±0（対平成13年度比）

### <去勢肥育もと牛（参考）>（黒毛和種）

- ・肥育終了体重：725kg〔29ヶ月齢〕→710kg〔26ヶ月齢〕
- ・1日平均増体重：0.72kg/日→0.82kg/日

### <繁殖雌牛>

- ・初産月齢：24.5ヶ月→23.5ヶ月
- ・分娩間隔：13.3ヶ月→12.5ヶ月
- ・体型（参考）：体高130cm、胸囲190cm、かん幅48cm（成熟時体型）（黒毛和種）

### 1. 産肉能力

- ・「日齢枝肉重量」は引き上げ、「脂肪交雑」は据え置くことを検討。
- ・「去勢肥育もと牛の能力に関する目標数値」（参考値）については、増体性の向上による肥育期間の短縮が図られるよう精査中。

### 2. 繁殖性

- ・「初産月齢」と「分娩間隔」は、現行目標を据え置く方向で検討（なお、両者を総合的に評価した子牛生産指数についても参考指標として新たに記載することを検討）。

### 3. 体型

- ・現行目標を据え置く方向で検討。